



水痘ワクチンによってひきおこされた 带状疱疹？

症例：1歳3カ月，男。

主訴：左軀幹の痒みを伴う皮疹。

既往歴：1歳時に水痘ワクチンを接種。母親によれば、とくに大きく赤く腫れたわけでもないとのこと。

コメント

水痘・带状疱疹ウイルス (VZV) の初感染で水痘になり、水痘罹患後皮膚病変から感覚神経を介して感覚神経節に潜伏するが、带状疱疹は潜伏感染していたVZVが再活性化して生じる。痛みを伴う代表的な神経皮膚疾患である。再活性化の機構は明らかにされていないが、VZV特異的細胞性免疫の低下と深い関係がみられ、高齢者や悪性腫瘍、糖尿病、関節リウマチなど、細胞性免疫が低下している患者に多く発症する。

胎児を含めて1歳未満の細胞性免疫機能は成人と比べて未発達である。一般に生後6カ月未満の乳児にVZVが感染し、2%に四肢低形成、四肢皮膚癬痕、眼球異常などが出現する。妊娠20週～分娩21日前までに感染すると、出生した児の9%は水痘に感染することなく乳幼児期に带状疱疹を発症するといわれている。また、生後6カ月未満の乳児は、母親が過去に水痘に罹患したことがある場合

現病歴：3日前から左腹部に発疹を認め、漸次背部にも拡大のため当科初診。

現症：左腹背部に浮腫性小紅斑を伴う漿液性丘疹の集簇局面が帯状に展開。痛みなし。痒みの訴えあり。

診断：带状疱疹。治療および経過：抗ウイルス剤投与により順調に癒癒化。

考察：母親に確認したが、患児に水痘の既往はなく、また母親が妊娠中に水痘を罹患したエピソードもない。したがって今回の発症のメカニズムは、1) 患児に水痘の不顕性感染があった、あるいは2) 3カ月前に接種した水痘ワクチンが带状疱疹をひきおこした、の2説が考えられる。しかし、ワクチン未接種の1歳児での不顕性感染は極めて考えにくい。そうかといって、水痘ワクチンが義務化されてから確かに带状疱疹の患者は子供を含めて増えたような印象があるが、ワクチンのウイルスが初感染代わりに神経根に潜伏したと疑われる症例は初めてである。今回のケースはどのように考えたらよいのだろうか？

石川博康

(八戸市・湊高台皮膚科)

移行抗体の存在から、不顕性感染になることがある。最近5年間の水痘ワクチン接種数は330万人であり、そのうちワクチン由来の带状疱疹発生率は多くても5人/330万人以下とされている。ご質問の患者のウイルス遺伝子を解析し、ワクチン株か野生株かを調べれば、ご質問の発症のメカニズムが1) 患児に水痘の不顕性感染があった、あるいは2) 3カ月前に接種した水痘ワクチンが带状疱疹をひきおこしたかが明らかになると思われる。

<文 献>

- 1) 倉根一郎，ほか：水痘ワクチンに関するファクトシート（平成22年7月7日版），国立感染症研究所，2010
- 2) 水上尚典，ほか：産婦人科診療ガイドライン産科編 2014，日本産婦人科学会/日本産婦人科医会，杏林社，東京，p325，2014

本田まりこ

(まりこの皮フ科院長)